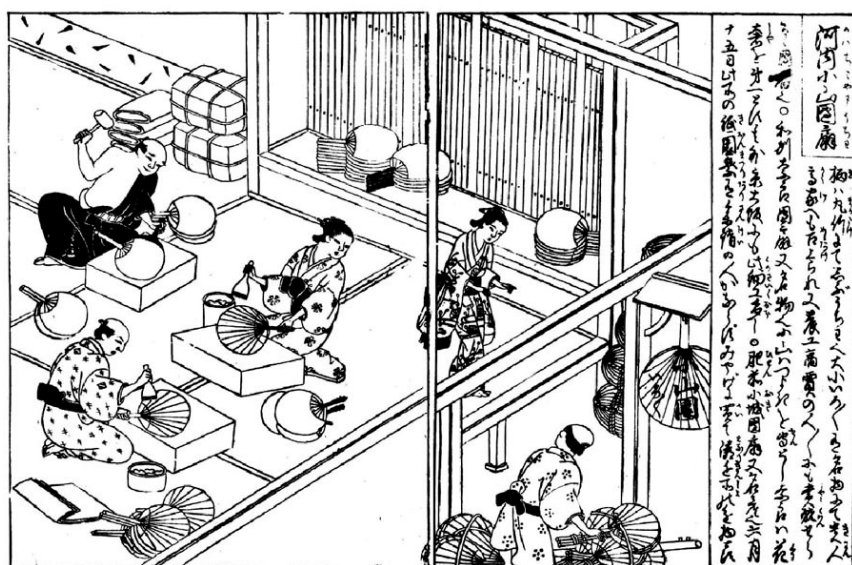


17.河内名所図会を訪ねて その十一 小山団扇②



河内小山団扇『日本山海名物図会』

・中野家の家業として

幕末安政(1854～1860)の頃、団扇屋浅野(麻野)伊左衛門は上納期限に間に合わないという不祥事をおかし、以後同じ村の職人「茂八郎(もはちろう)」が加わり、「兩人御用請負」という形に移行しました。その後、結局伊左衛門は脱落したらしく、(中野)茂八郎さんだけが伝統を守り引き継ぐことになりました。明治に入ると団扇製造は中野家の家業となり、代々中野茂八郎を名乗り、近年まで小山の通りに「御団扇師 中野茂八郎」と看板を掲げてこられました。営利目的ではなく祖先伝来の名誉として継承し、人手を借りず一枝十数年の使用に耐える精良品を造り続けられました。昭和初期で一か年 500 本くらい。明治 10 年(1877)、大正 3 年(1914)、昭和 4 年(1929)とそれぞれ天皇行幸の際、大阪府を通じて、天覧、献上の光栄を得ました。大正 6 年(1917)に東宮行啓の際も御献上御嘉納を得ました。遠くの高貴の方からの注文もあったそうです。

昭和初期には既にそれまでの白、渋の二色に加えて紅・黄・青の色を加え、五色の団扇としていたようです。これは高級品で当時 5 円位したといえます。中野氏の晩年には一本 5,000 円、五色組みで 25,000 円でした。この道 60 年の中野茂八郎氏が、その年 10 数本の最後の大団扇を製作した後亡くなられたのは昭和 45 年(1970)で、同時に小山団扇も絶えてしまいました。

・小山団扇の復活

藤井寺市商工会では、昭和 60 年(1985)から伝統工芸品である小山団扇の復活プロジェクトに取り組み「小山うちわ展」や「うちわ教室」を開催しています。「うちわ教室」(団扇を作ります)はコロナ禍で昨年はありませんでしたが、一昨年までは行われていたそうです。市役所 1 階ロビー、藤井寺市商工会 1 階エントランスには実物の展示があります。ゆめぷらざでは「めざせ！ 小山団扇」というオリジナル手づくりうちわキット(わかりやすい「つくり方ブック」付)を販売中。税込み 1200 円で

す。



今回、藤井寺市商工会の常務田中義孝様到大変お世話になりました。田中さんは、『藤井寺市史』『小山団扇』の項の種本ともなった藤井寺市・藤井寺市商工会発行の『小山団扇』昭和 61 年(1986)の制作に若手の頃関わられ、復活プロジェクトにも尽力されています。手づくりうちわキットで作ったうちわも机上で立つのか尋ねましたところ、「立ちます！」とのこと。ただし中野茂八郎さんもされていた仕上げの工夫をする必要があるそうです。興味のある方は手づくりうちわキットで試してみてください。ちなみに今「日本三大うちわ」といえば、房州うちわ(千葉)、京うちわ(京都)、丸亀うちわ(香川、日本の団扇生産量の 90%)だそうで、どこも伝統の製法の継承には苦勞されているようです。

(2021 年 3 月 中澤)